

建築と都市  
Architecture and Urbanism  
01:10

373

Feature:  
Brick Architecture

特集:  
煉瓦の建築

# au

Architecture and Urbanism

2001: 10 No.373

## 発行者/編集者

吉田信之

## エディトリアル・アソシエイツ

エルウィン・J・S・ピライ

西沢立衛

ケン・タダシ・オオシマ

## デザイン・コンサルタント

マッシモ・ヴィネリ

## アドヴァイザー

安藤忠雄、大阪

ジャック・ヘルツォーグ、バーゼル

伊東豊雄、東京

レム・コールハース、ロッテルダム

テレンス・ライリー、ニューヨーク

バーナード・チュミ、ニューヨーク

マイケル・スピークス、ロサンゼルス

ピーター・アリソン、ロンドン

## 編集スタッフ

安田董

奥山茂

津久井典子

藤野香織

柴田直美

津留崎顕子

## 企画・広告部

滝沢幸信

3

カレンツ: ジーターレル高原の鐘楼/シドニー現代美術館ムーヴィング・イメージ・センター複合施設/アルペール・オネゲル現代美術館コンペティション

## 特集: 煉瓦の建築

14

クラウド・ディエター・ヴァイス  
エッセイ: 「現代の表現としての建築」

22

ミース・ファン・デル・ローエ  
ランゲ邸/エステル邸

28

シーグルド・レヴェレンツ  
セント・マークス教会

40

ハインツ・ビーネフェルト  
ババネク邸

52

エサ・ラークソーネン  
エッセイ: 「アルヴァ・アアルトと煉瓦」

56

シュミット・ハマー・アンド・ラーセン  
テストラップ・カレッジ

66

ヒルト・アンド・カルトヴァッサー  
アグストールの住宅

72

レーデレル+ラグナルスドッティ+エーイ  
ザーレム国際大学  
エッセイ: 「煉瓦で建てるということ」 82

88

ブルカルト・マイヤー・アーキテクト  
マルティンスブルグ通りの集合住宅  
プール・スクール・アネックス 98

106

フィンク+ヨッファー  
ハノーヴァーの集合住宅

114

ヘルマン・ツァインストラ/アトリエ・ツァインストラ・ヴァン・デル・ホル  
シュボレンブルフの集合住宅

118

カルロ・バウムシュラーガー&ディートマル・エベルレ  
ロッハウのコミュニティ・センター

126

ティム・ハイド ヴェレナ・フォン・ベッケラート  
ベルリンの2棟の住宅

132

バオロ・ゼルマーニ  
聖母マリアの礼拝堂  
バヴァイリオン 136

140

ペール・キルクビー&イェンス・ベルテルセン  
アールスのミュージアム・センター

150

マーク・ウィグリー  
連載: ミレニアムの建築論と建築教育—第四部「新型ウイルス旧理論の悪戯」

152

IOM/石堂威  
連載: 建築のアリバイ探し 第7回「意識の拡張」

154

アンドリュウ・マックネア  
連載第4回: ビルディング・シンクタンク「ジョン・ヘイダックへの手紙」

表紙: シーグルド・レヴェレンツ設計、セント・マークス教会  
撮影: ファビオ・ガッリ

© 建築と都市 373号 平成13年10月1日発行  
毎月1回1日発行 昭和46年3月3日第三種郵便物認可  
定価2,500円(本体2,381円)  
年間購読料30,000円(年12冊/税・送料込み)  
発行: 株式会社エー・アンド・ユー  
東京都文京区湯島2-30-8 〒113-0034  
電話: (03) 3816-2935(代) FAX: (03) 3816-2937  
E-mail: au@japan-architect.co.jp URL: http://www.japan-architect.co.jp  
振替: 00130-5-98119  
印刷: 大日本印刷株式会社  
取次店: トーハン・日販・大阪屋・中央社・栗田出版・誠光堂・太平洋

# Burkard Meyer Architects

Housing Projects on Martinsberg Street  
Baden, Switzerland 1999-2000

ブルカルト・マイヤー・アーキテクト  
マルティンスブルグ通りの集合住宅  
スイス、バーデン 1999~2000



Burkard Meyer Architects  
Housing Projects on Martinsberg Street  
Baden, Switzerland

ブルカルト・マイヤー・アーキテクト  
マルティンズベルグ通りの集合住宅  
スイス、バーデン



### Situation/Theme

The building structure assigns the southeastern corner of the Merker-Area, the abandoned industrial area, in the center of Baden. The three separate building, of which two were realized in the first phase, reflect the typological characteristics, based on the model range of houses in the early twenties, along Martinsbergstrasse.

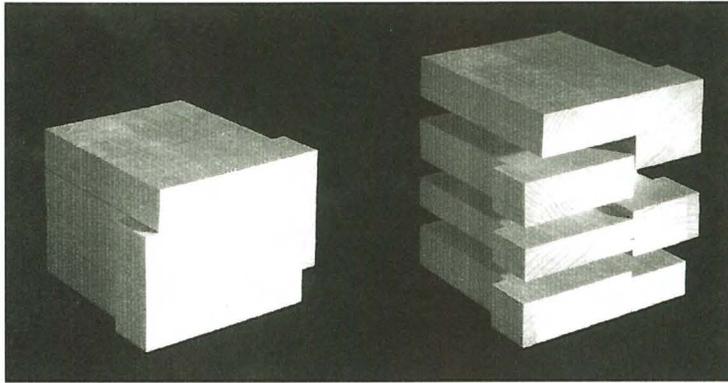
The main entrance is located at Martinsbergstrasse leading into the building over a small plaza, encompassed with concrete walls and hedges.

The urban housing is thematised by gravel covered private exterior spaces that are separated with walls from the street.

The rear street accesses the garage and connects the building to the "merker-Wiese", the park area, which belong, as well as the two tenements, to the composition of the whole area.

In the south elevation the building appears solitary but in the north, where topography uncovers the basement, the whole building turns out as one complex.

The spatial sequence of alternating carports and closed garage under the building gets an adequate counterpart in the volumes and voids above. This formal composition creates a strong connection between socle and building that even makes a differential materialization (concrete and brickwall) possible.



### Interior – and Structural System

The building consist of four one story apartments, except the house A, in which the attic-story claims one and a half floor, which are organized in a circular site development. Behind this crucial point each apartment is divided into two zones, one side, chambers with heights of 2.46 m and living- and dining space on the other side with heights of 3.06 m. The living area, which expands through the whole profundity of the house from cladding to cladding, changes from each floor from one side to the other within the crucial point. This is to the benefit of the slight heights above and thereunder. This main principle to arrange in alternate location of facade is to learn at the ceiling. A veranda, which is not central heated, extends the living room but with air conditioning possible and with an isolated vitrification a buffer zone comes into existence, which can be completely opened in summer time.

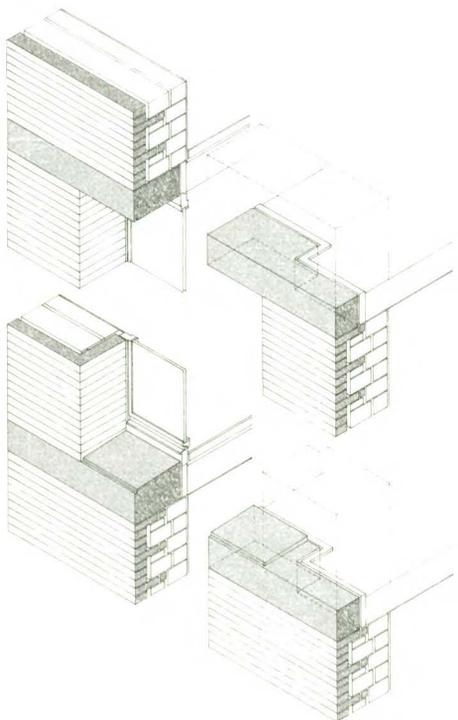
The facade wall and development nucleus on concrete create together with the ceiling the structural system, whereas the remaining walls are constructed with plaster.

### Fenestration– and Structural System

The fenestration system constitutes two different kinds of openings; the first kind is determined by the spatial structure of the building, the other can be individually set by the customer. Both fenestration systems open the whole floor height from floor to ceiling.

The set openings refer to the inhabitable space. They show the principle of the mirrored floor plans, to the composition of the north and south facades. The window span of 4.60 m approaches the maximum feasible opening due to the lower maximum load of brickwall system "Optitherm". This is the result of the higher porosity (in comparison to traditional brickwall systems) of this integrated insulation system. The east and west elevations are a composition of brick panels, flush glazing and deep set French balconies.

The level high openings make the walls appear as separate panel elements. These elements stand, supported by the load distributing concrete ceilings, and are independent from upper and lower walls. For the design this means that the position of the openings may be changed shortly before realization.



## 立地/テーマ

この建築構造体はバーデン中心部の廃れた工場地帯、マーカー・エリアの南東の一隅を占めている。この三つの独立した建築群は、そのうちの二つが最初の段階で建設されたのだが、マルティンスブルグ通り沿いにある20世紀初頭の住宅群のモデル区域を基礎とした類型学的な特徴を反映している。

メイン・エントランスはマルティンスブルグ通り沿いに位置し、道なりに進むと建物の内部に入りコンクリート壁と生垣に囲まれた小さな広場に出る。

都市住宅は壁によって道路から切り離された私的な外部空間を覆う砂利によってテーマ化されている。背後の道路はガレージにアクセスし、この建物と「マルケル・ワイセ」という、二つの借家と同様に全体エリアの構成の一部をなす公園地帯をつなぎあわせている。

南方向のエレベーションではこの建物は戸建てに見えるが、地形的に地下室を丸見えにする北方向から見ると、建物全体はひとつの複合体となりかわってしまう。

建物の下にある予備のカー・ポートと閉じたガレージの空間的連続は上部のヴォリュームとヴォイドにおいて適当な対抗物を得ている。この形式的構成は差異の物質化（コンクリートと煉瓦壁）さえ可能にする台座と建物との強固なつながりを生みだしている。

## 内部と構造システム

この建物は、4階建てのアパート群によって構成されており、住宅Aのみ屋根裏が1階半分をしめている。これらのアパート群は敷地が円環状に発達するように組織だてられている。この十字の交差点の背後で、アパートはそれぞれ二つのゾーンに分けられており、片方では部屋の天井高は2.46mとられており、反対側にあるリビング、ダイニング空間の天井高は3.06mとなっている。西洋下見から西洋下見まで家の奥行き全体を通じて広がるリビングの空間は十字の交差点内部において片側から反対側へとそれぞれの階から変化する。このことは上下に高さに差がでることによってもたらされる恩恵である。ファサードの位置を互い違いの配置にするこの主原理は天井において知ることとなる。

セントラル・ヒーティングなしのヴェランダはリビング・ルームを拡大しているが、可能な空気調節とガラス窓によって隔絶することにより緩衝帯が生まれ、夏の間は完全に開放しておくことができる。

残存の壁がブラスター製であるにもかかわらず、ファサードの壁とコンクリートの成長核は天井とともに、構造システムを創出している。

## 窓割りと構造システム

窓割りのシステムは2種類の異なる開口部を構成する。まず建物の空間的構造によって決定される種のもがあり、つぎに顧客の要望に応じて設置される類のものである。両方の窓割りシステムにおいて床から天井までの天井高全体が開口になっている。

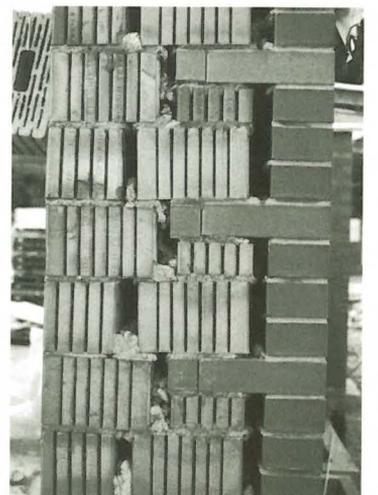
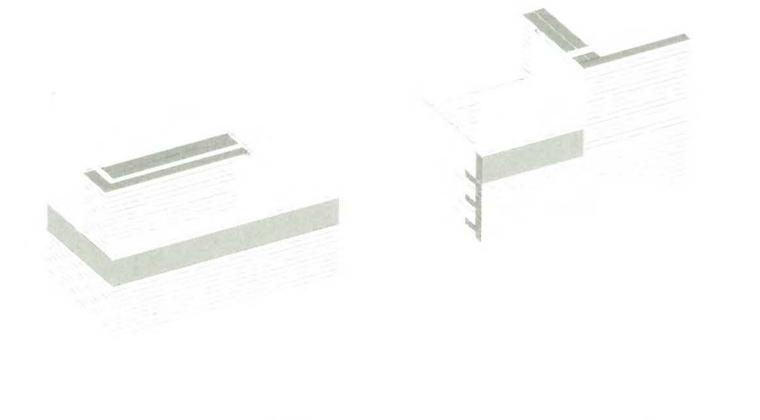
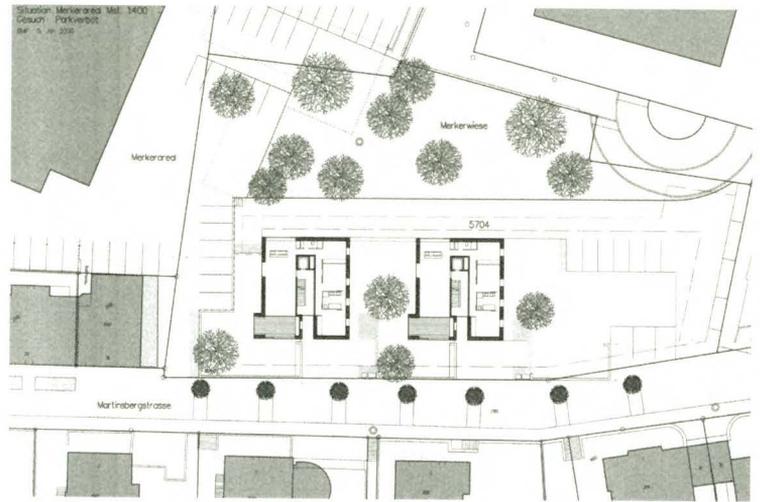
据えつけられた開口部は居住空間に関連しており、南北のファサードの構成に対し鏡映しとなった平面計画の原理を示している。4.6mという窓の全長は開口部として実行可能な最大限に接近しており、これは「オブティタム」という煉瓦壁のシステムにおける極限すれすれまで迫った荷重による。これは完全な断熱システムよりも高度な多孔性（伝統的な積積システムと比較して）の結果によるものである。東西のエレベーションは、煉瓦のパネル、フラッシュ・グレイジングと深くくぼんだフランス式バルコニーにより構成されている。

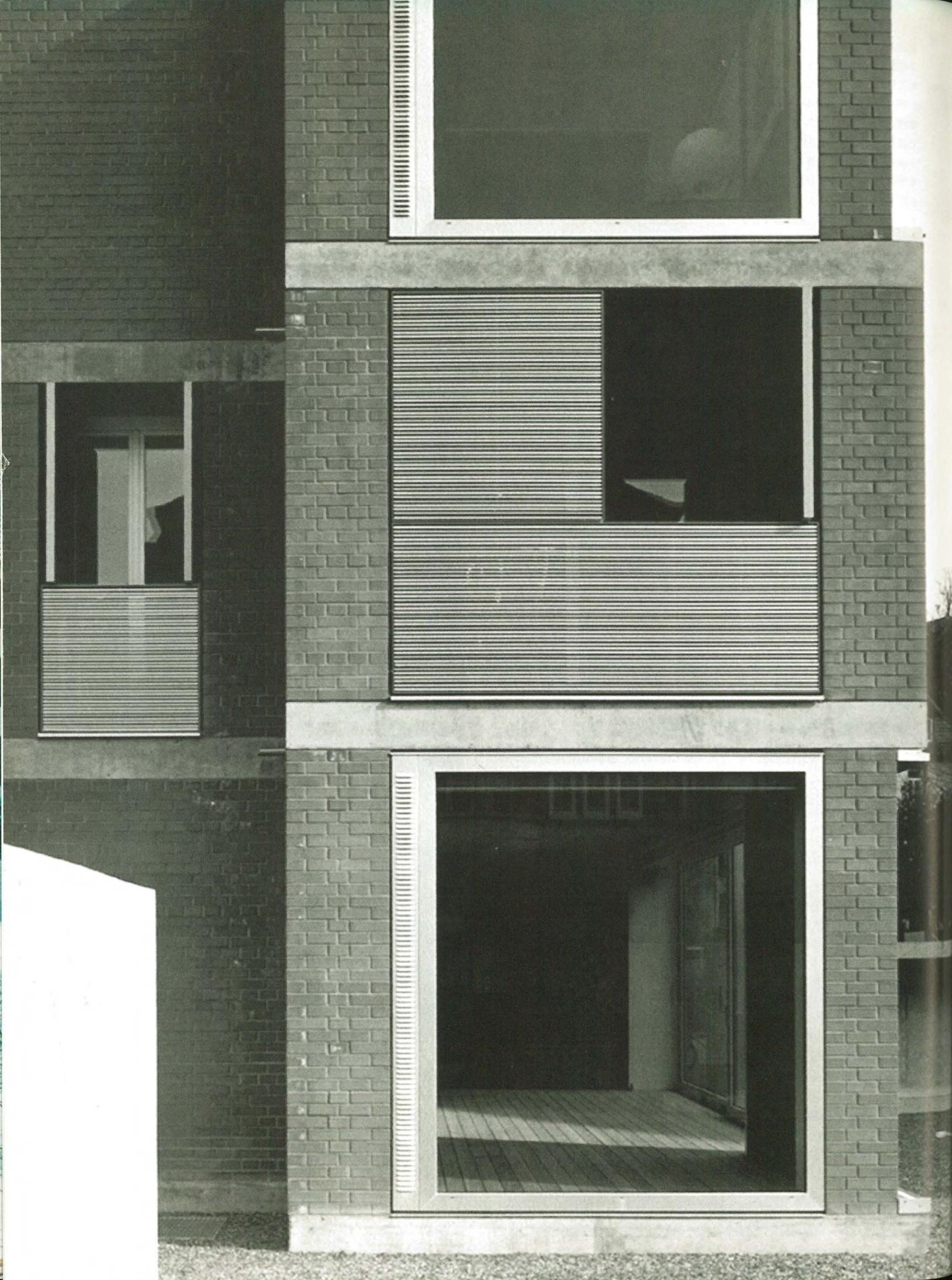
レベルの高くなった開口部は壁を独立したパネルとしての要素に見せている。これらの要素は荷重の分散するコンクリート天井により支えられており、上下の壁から独立している。デザインのために、開口部の位置は実現直前に変更されるであろうことを意味している。

(松本晴子訳)

*p.88-89: General view from north. Opposite, from top: Concept model. General view from west. Detail drawing of the brick and the window glass. This page, from top: Site plan (scale: 1/1000). Detail drawing of the exterior wall and the window. Detail of brickwork. All photos on pp.88-97 by Reinhard Zimmermann.*

88～89頁：北からの全景。右頁、上から：コンセプト模型。西からの全景。煉瓦と窓ガラスの詳細図。本頁、上から：配置図（縮尺：1/1000）。外壁と窓の詳細図。煉瓦積みの詳細図。





Opposite: Close-up view of the openings with different types. This page, from top: North elevation, South elevation (scale: 1/400), Section (scale: 1/200), Details of the windows. p.95: Night view. p.96, 97: Interior views.

右頁：様々なタイプの開口部。本頁、上から：北立面図、南立面図（縮尺：1/400）、断面図（縮尺：1/200）、窓のディテール。95頁：夜景。96、97頁：様々な部屋の様子。

